

2026年3月期（2025年度） 決算説明会

(2025/4/1～2026/3/31)

※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。
将来に関する予想には様々な潜在的リスクや不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。
従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えてください。

2026年3月期（2025年度）実績及び 2027年3月期（2026年度）見通しについて

代表取締役社長 鷹野 雅央

事業セグメントの紹介

事業セグメント	製品分類	事業の内容	主要製品
住生活関連機器	オフィス用家具 福祉・医療施設用椅子 臨床検査薬	オフィス用椅子等のオフィス什器の製造販売 健康福祉関連機器の製造販売 アレルギー検査システムの製造販売	オフィス用椅子  医療施設用椅子  アレルギー検査装置 
検査計測機器	検査計測装置	半導体・フィルム・FPD*向け画像処理検査装置の製造販売、画像処理計測装置の製造販売 *FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）	半導体WMシリーズ  フィルム外観検査装置  FPDムラ検査装置 
産業機器	ユニット製品 産業機器	薄板ばね、線ばね、渦巻ばね等の製造販売 電磁アクチュエータの製造販売	渦巻ばね  電磁アクチュエータ 
エクステリア	エクステリア製品	オーニング、パラソル、跳ね上げ式門扉、その他ガーデンエクステリア製品の製造販売	オーニング  パラソル 
機械・工具	工具機械装置等	工具機械装置・外構資材等の仕入販売 連結子会社である株式会社ニッコーの事業	

2025年度決算及び2026年度予想ガイダンス

(単位：百万円)

	2024年度 実績	2025年度 実績	対前年比
売上高	23,969	24,802	833
営業利益	451	841	390
経常利益	528	1,000	471
親会社株主に帰属 する当期純利益	520	616	95
1株当たり配当金	20円00銭	20円00銭	-

● 2025年度実績（対前年比）

売上高は検査計測機器、住生活関連機器が増収。
営業利益は増収に伴う粗利益額の増加等により増益。

	2025年度 実績	2026年度 予想	対前年比
	24,802	25,000	197
	841	1,000	158
	1,000	1,100	99
	616	730	113
	20円00銭	20円00銭	-

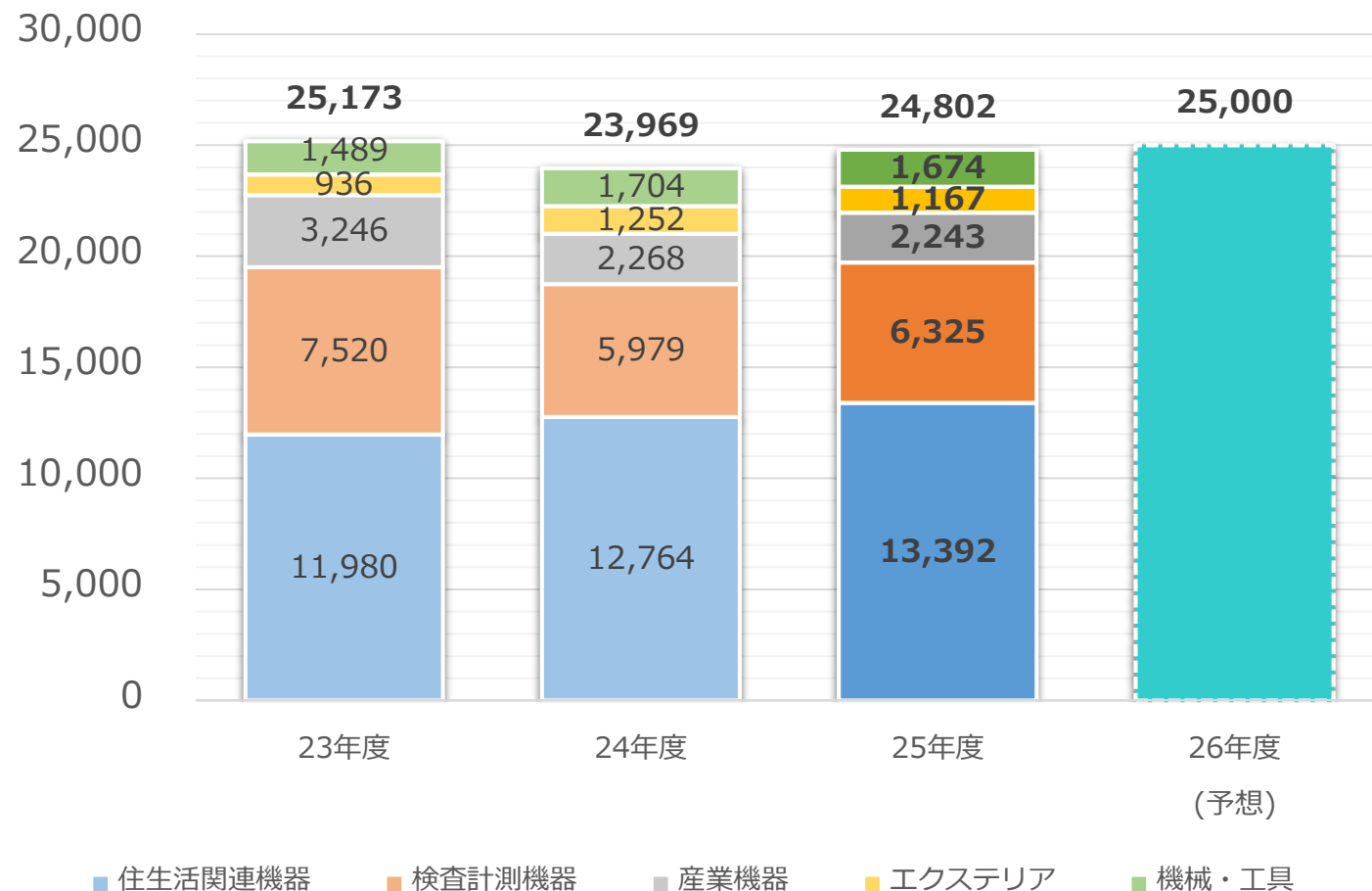
● 2026年度予想（対前年比）

住生活関連機器は堅調、検査計測機器増収効果で利益創出する。
中東情勢影響懸念あるも状況見極め対応を図っていく。

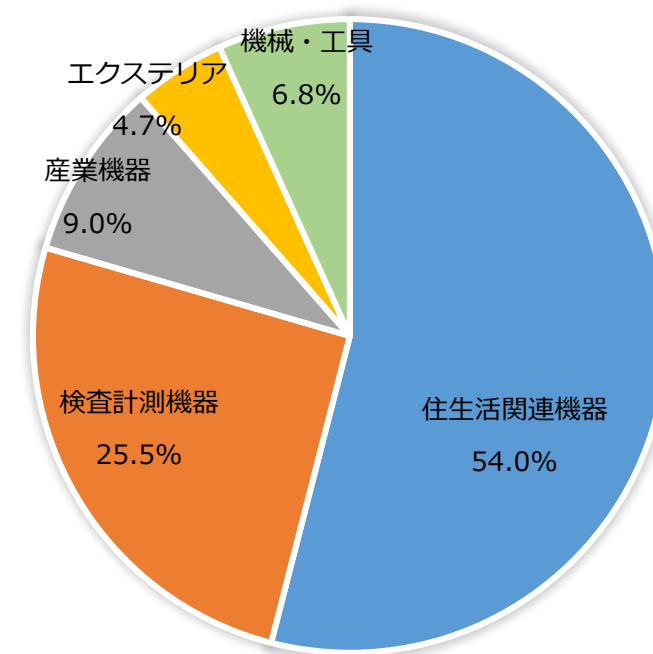
連結セグメント別売上高の推移

セグメント別売上高推移

単位：百万円



2025年度 売上高構成比







連結セグメント別売上高（住生活関連機器）


住生活関連機器 売上高 (百万円)





	2024年度	2025年度	増減率 (%)	対前年比コメント
連結セグメント売上高	12,764	13,392	4.9%	主にオフィス家具製品及び臨床検査薬の販売増加により増収。

【内訳】

タカノ_ファニチャー	前年比 増収		首都圏を中心としたオフィス市場の活況により、需要が想定を上回る水準で推移した。
タカノ_ヘルスケア	前年比 減収		組み込み式体圧分布センサの売上が対前年比で減少。
タカノ_メディカル	前年比 増収		代理店との協業もあり装置成約数が増加。装置の伸長に伴い試薬販売量も増加。
その他 (タカノ_その他・子会社)	前年比 増収		—

2026年度予想

対前年比売上高	通期の取組み
	販促活動の強化ならびに中東情勢影響への対応。



	前期の高水準需要に対して減収想定。
	主力商品である内相検査向け処置台コンバーESの全面リニューアル、車イスクッションの新製品の販路拡大に注力。
	代理店を中心に販促活動を進める。製品認知度向上のため学会を中心に出展を継続する。
	—

連結セグメント別売上高（検査計測機器）


検査計測機器 売上高（百万円）



	2024年度	2025年度	増減率 (%)	対前年比コメント
連結セグメント売上高	5,979	6,325	5.8%	主にフィルム向け検査装置の 販売増加により増収。

【内訳】

タカノ_検査計測	前年比 増収		※検査計測機器 パートでご説明
その他 (タカノ機械・台湾鷹野)	前年比 減収		—

2026年度予想

対前年比 売上高	通期の取組み
	※検査計測機器 パートでご説明



	※検査計測機器 パートでご説明
	—

連結セグメント別売上高（産業機器・その他）

産業機器 売上高（百万円）

	2024年度	2025年度	増減率 (%)	対前年比コメント
連結セグメント売上高	2,268	2,243	△1.1%	半導体関連向け製品の販売減少により、対前年比で減収。


【内訳】



タカノ_産業機器	前年比 減収		半導体向けは引き続き低調。繊維機械向けは拡大。医療向けは回復。
その他 (香港鷹野・鷹野電子(深圳)・Takano of America)	前年比 減収		—

その他 セグメント売上高（百万円）



	2024年度	2025年度	増減率 (%)	対前年比コメント
エクステリア	1,252	1,167	△6.8%	オーニングの大型案件の販売減少等により対前年比で減収。
機械・工具	1,704	1,674	△1.8%	大型案件の受注が好調に推移し、子会社の個別売上高は増収となったが、連結売上高は対前年比で減収。

2026年度予想

対前年比売上高	通期の取組み
	半導体向けの早期量産化。医療向けユニット商品化。

	半導体向けの早期量産化。医療向けユニット商品化。
	—

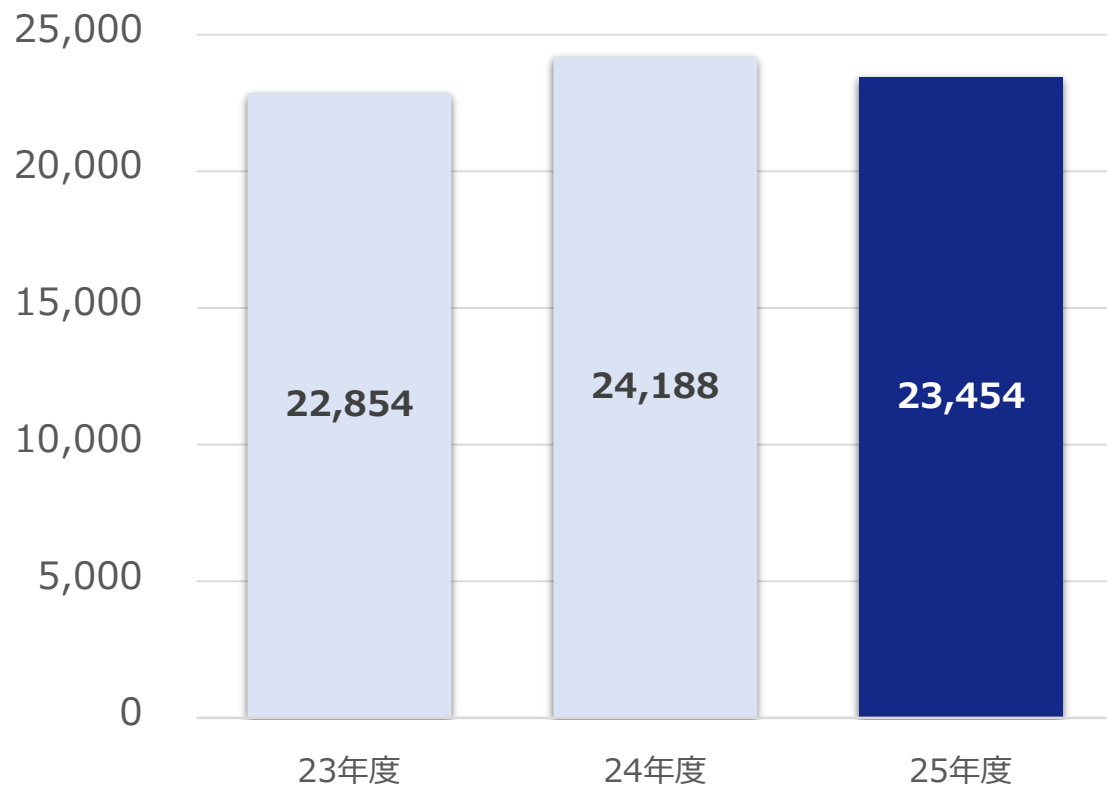
2026年度予想

対前年比売上高	下期の取組み
	新製品の上市に向けての対応と営業活動に注力する。
	新市場の開拓など、営業活動に注力する。

受注・受注残高の状況

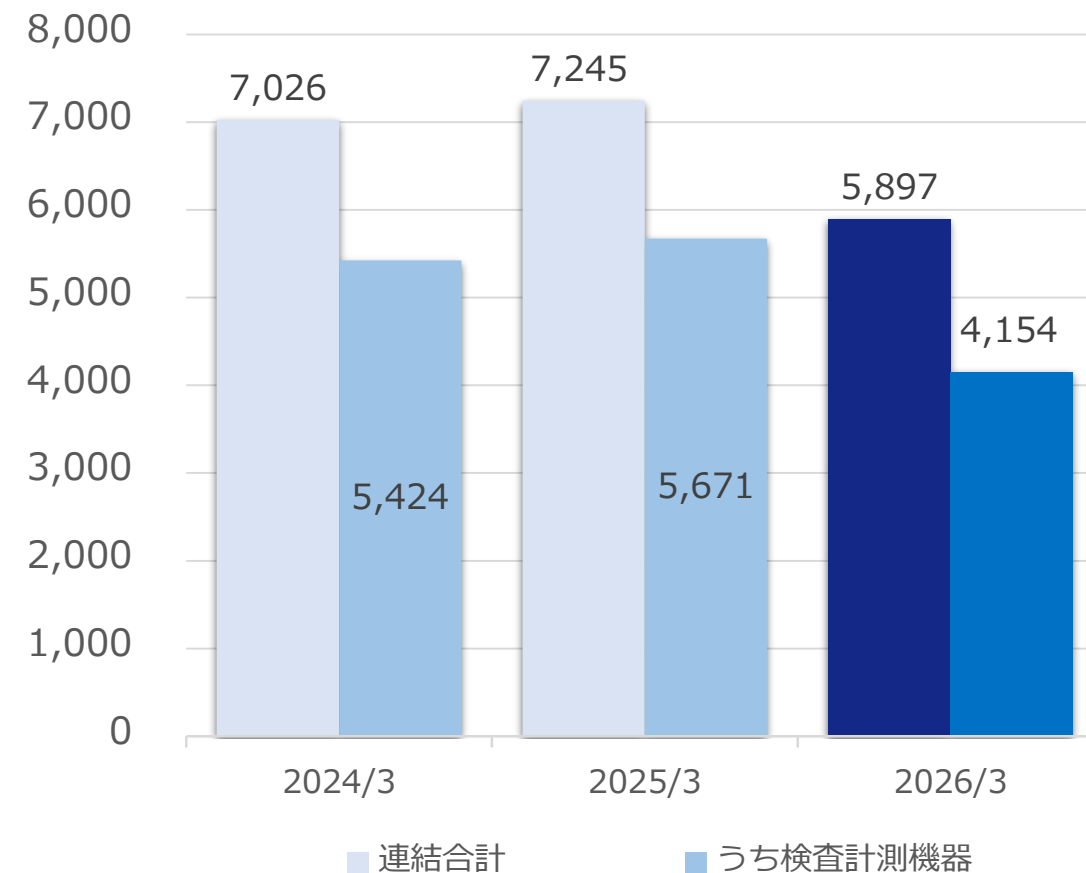
受注高推移

単位：百万円



受注残高推移

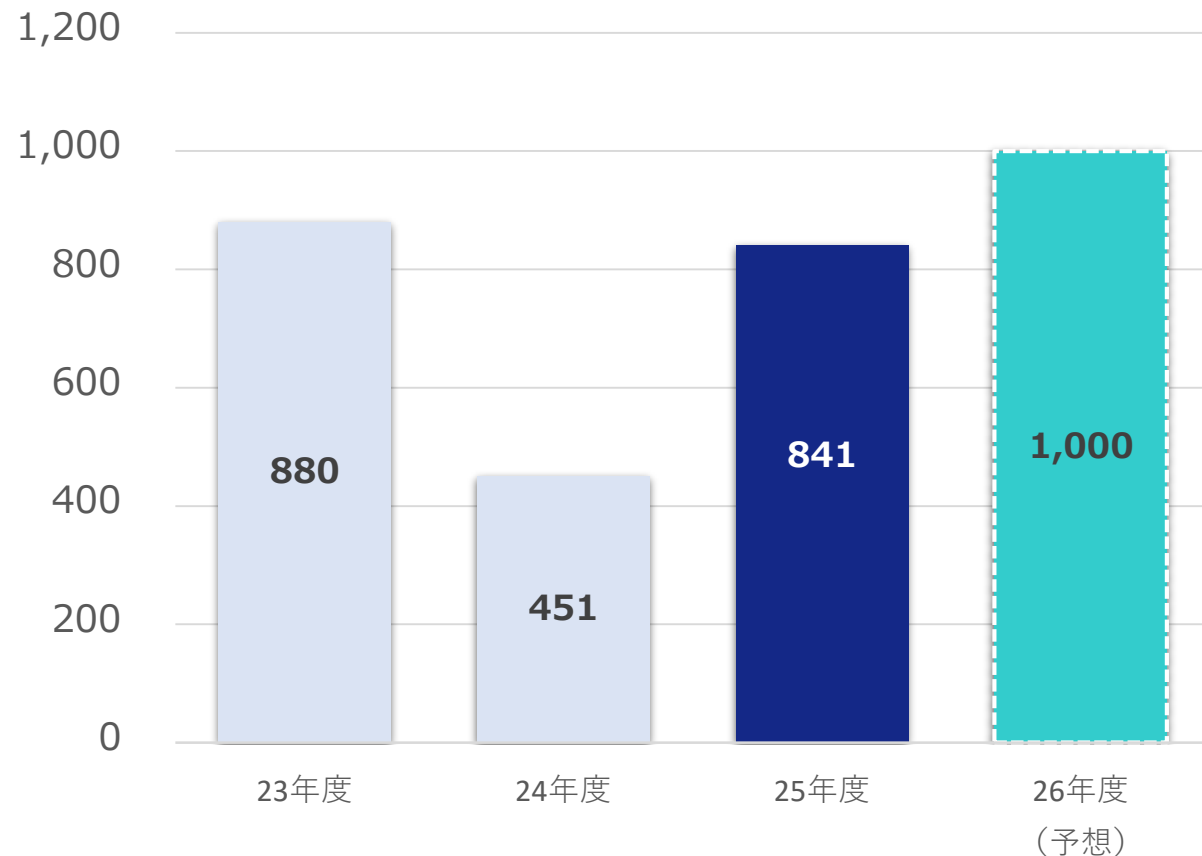
単位：百万円



連結セグメント別利益の推移

単位：百万円

セグメント別利益推移



【連結セグメント別利益 内訳】

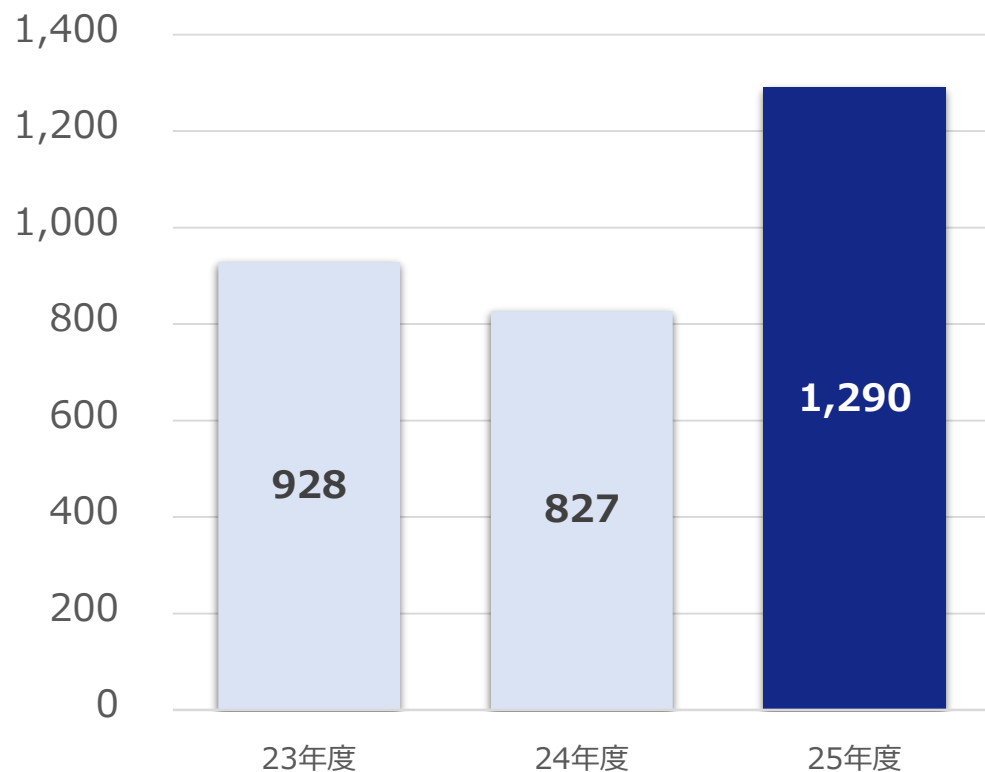
(単位：百万円)

	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績
住生活関連機器	△47	472	764
検査計測機器	266	61	232
産業機器	576	△257	△247
エクステリア	△6	87	14
機械・工具	76	98	110
連結調整	15	△11	△32
合計(営業利益)	880	451	841

設備投資の状況

設備投資額推移

単位：百万円



● 2025年度投資額 1,290百万円

■ 住生活関連機器 790百万円

- ・ 生産設備更新（樹脂成形機等）
- ・ 太陽光発電設備導入

■ 検査計測機器 328百万円

- ・ マシニングセンタ導入

■ エクステリア 88百万円

- ・ NC加工機・太陽光発電設備導入

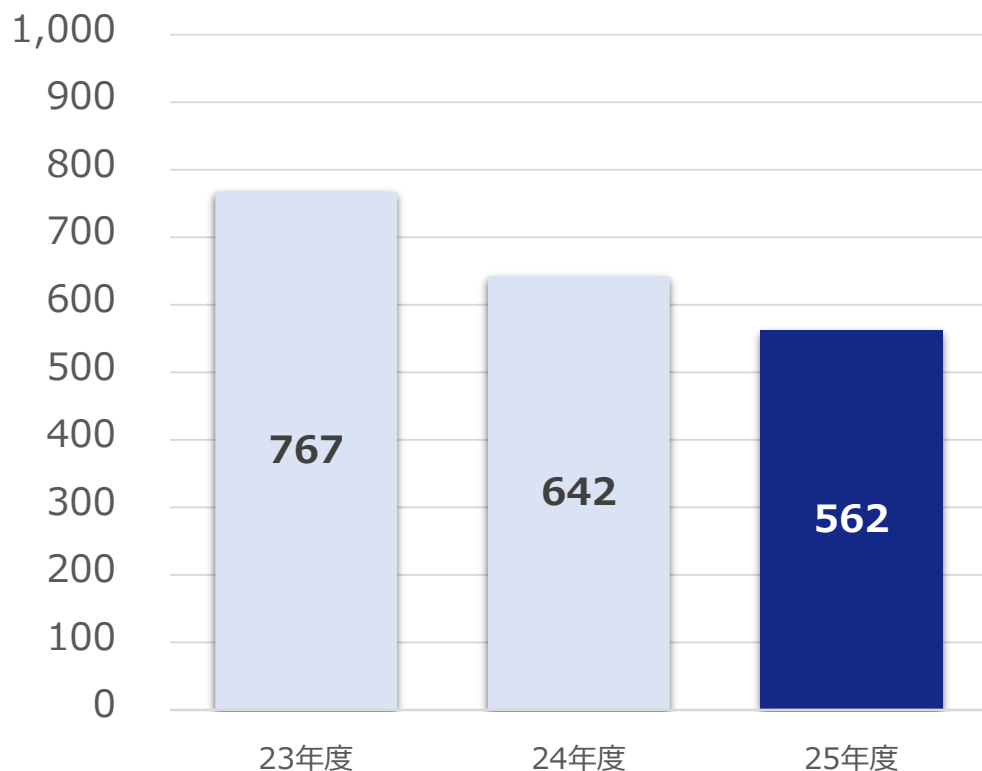
■ 全社共通（※上記数値に含む）

- ・ 事業用地取得 267百万円
- ・ 会計等システム更新費用 135百万円

研究開発の状況

研究開発費推移

単位：百万円



● 2025年度研究開発 562百万円

■ 住生活関連機器 198百万円

- ・ 環境対応 新素材研究等
- ・ 金属3Dプリンターを活用した開発試作
- ・ 臨床検査薬の使用期限延長のための要素研究

■ 検査計測機器 364百万円

- ・ 高速・高精度対応の画像処理装置開発
- ・ AIによる欠陥分類研究
- ・ 先端半導体検査用プローブ開発



トピックス

技術開発本部：先端半導体検査用プローブの開発

MEMS技術による業界最小クラスのプローブ開発

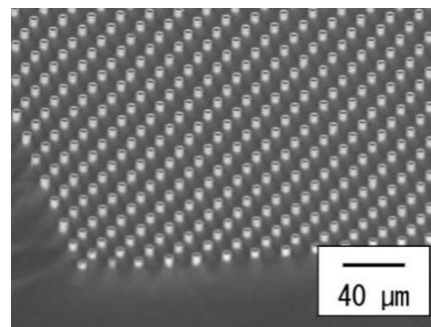
2026年3月2日、当社は次世代半導体検査の課題を解決する「先端半導体検査用プローブ」の開発を公表し、記者会見を執り行いました。（※工業技術センターとの共同開発）

半導体デバイスの高集積化・微細化が進む中、従来の検査技術ではプローブピンのピッチ狭小化や、電極（ハンダバンプ）へのダメージ低減に限界がありました。この課題を解決するために、MEMS技術を活用した低コストの検査用プローブの技術開発に取り組んでまいりました。

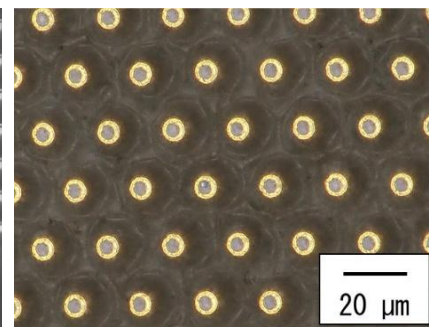
半導体検査用プローブ技術のさらなる高精度化を目指し、研究開発を進めてまいります。

技術特徴

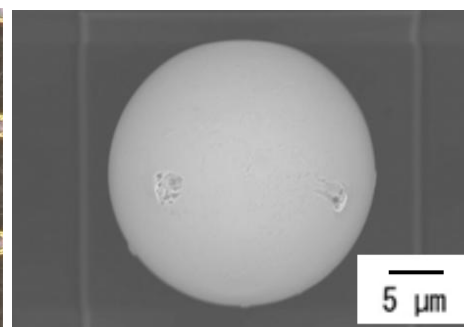
- ① ピンピッチ：20 μm 以下（業界最小クラス）
- ② ピッチ／長さ精度： ± 1 μm 以下
- ③ 等ピッチアレイ：10万ピン以上対応
- ④ 高周波テスト対応
- ⑤ 電極ダメージ軽減
- ⑥ 低コスト
- ⑦ マルチコンタクト
- ⑧ ユニバーサルコンタクト



プローブアレイ
外観図



狭ピッチプローブ上面
(約1500倍)



当社20 μm ピッチ品
コンタクト痕（2箇所）

メディカル部門：SiLIS-100 上市以来2年半で順調な伸びに

- ◆2023年秋の上市後、販促の実施等により、市場での認知度が向上。46項目のアレルギー検査を同時、迅速に行うことが出来、非特異的IgEやクルミ、カシューナッツといった市場トレンドに応じた検査項目を含むことから、耳鼻咽喉科と内科を中心にSiLIS採用が伸長、順調な伸びを見せております。
又、採用実績進行に伴い、代理店との販売協力体制の構築も進んでおります。
2026年度更なる拡大を目指します。



ファニチャー部門（エネルギー改革の取り組み）

エネルギー変革 ～カーボンニュートラルに向けた取り組み～

② 3号／開発／試験室棟発電所
2026年2月～稼働中 (135t-Co2)

導入により年間**515t**のCo2を削減

① 西高台発電所
2025年4月～稼働中 (110t-Co2)



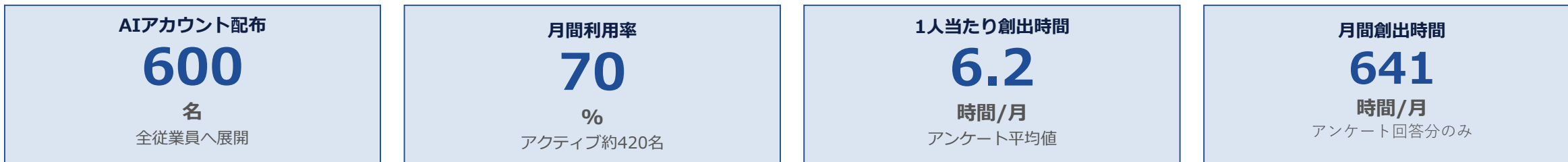
③ 事務所／排水処理／排水貯蔵棟発電所
2026年10月稼働開始予定 (48t-Co2)



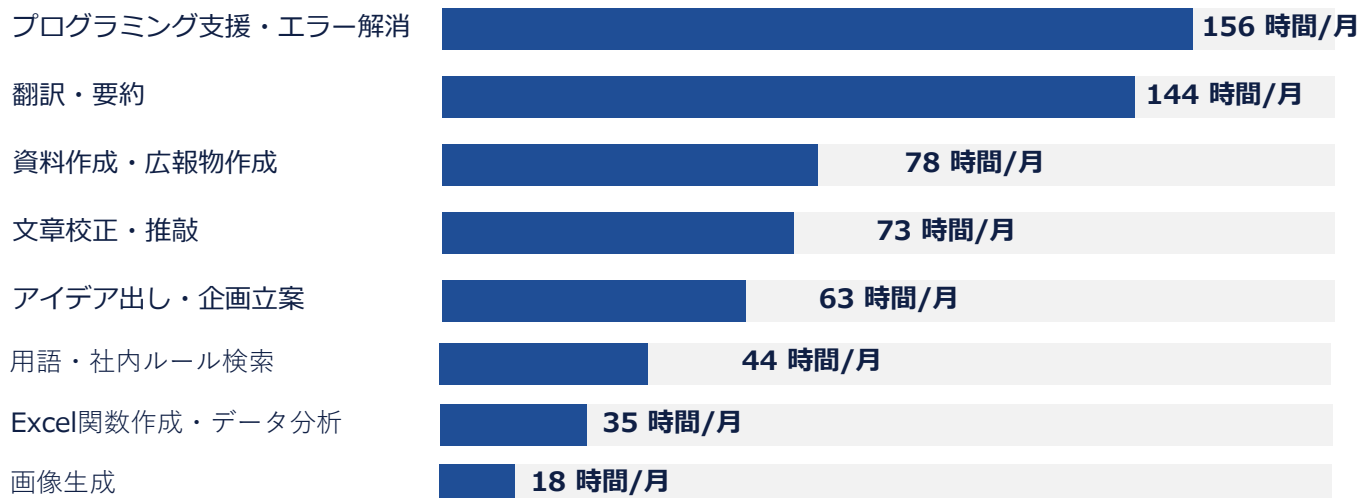
③ 1／2号棟発電所
2026年6月～稼働中 (222t-Co2)

全社AI活用の定量実績 — 全従業員への展開と利用効果

全従業員約600名にAIアカウント配布完了 / 月間約70% (約420名) が継続利用 / 効果実態は2026年5月社内アンケート (回答103名) にて把握

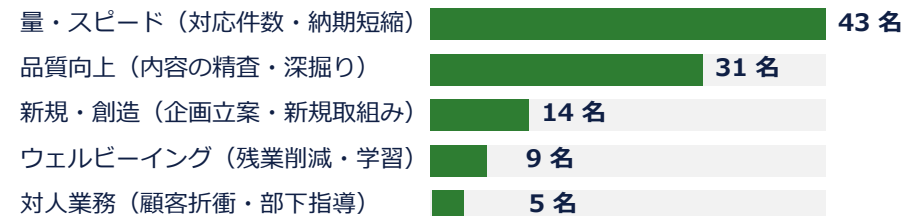


業務カテゴリ別 月間創出時間 (上位8領域)

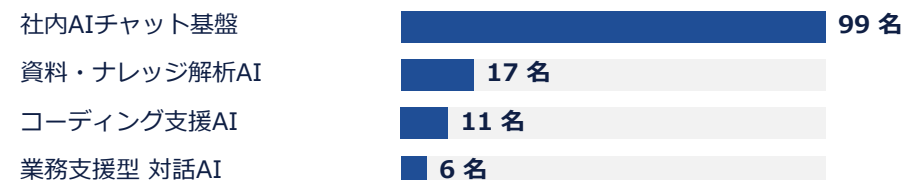


※社内アンケート (回答103名) の自己申告値の合計。上位8領域を表示、全10領域の合計は月間641時間。

創出時間の投資先 (複数回答)



活用AIツール (利用者数)



※機能カテゴリで分類 (複数ツール併用回答を含む)。

2025年度（2026年3月期） 検査計測機器事業 決算説明資料

取締役部門長 山本 幸康

2026年06月12日(金)

2026年3月期 検査計測機器 業績の内容等について

(ご注意)

本資料は、検査計測機器の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものです。

本資料で開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。本資料で述べられている予測や見通しには、不確実な情報が含まれていることをご承知おきください。

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

セグメント情報

	会社名	沿革	基本情報	事業の内容
加工・組立	タカノ機械株式会社 ※連結子会社 	1979年当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	事業人員：約40名 拠点：宮田村	<ul style="list-style-type: none"> 省力化機械の製造販売 検査計測装置のメカ機械等の製作
調整・出荷	タカノ株式会社 検査計測部門 	1987年画像処理装置第1号機を完成	事業人員：約200名 国内拠点：全6拠点 <ul style="list-style-type: none"> 信州南平工場 函館事業所 埼玉事業所 東京営業所 静岡CSセンタ 大分CSセンタ 	半導体や液晶・高機能フィルム用の検査計測装置等の製造販売
保守・改造	台湾鷹野股份有限公司 ※連結子会社 	2005年当社100%子会社として設立	事業人員：約15名 拠点：全2拠点 <ul style="list-style-type: none"> 台中本社 桃園事務所 	台湾におけるFPD・半導体向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動

セグメント売上高（実績：2026年3月期）

セグメント売上高は増収

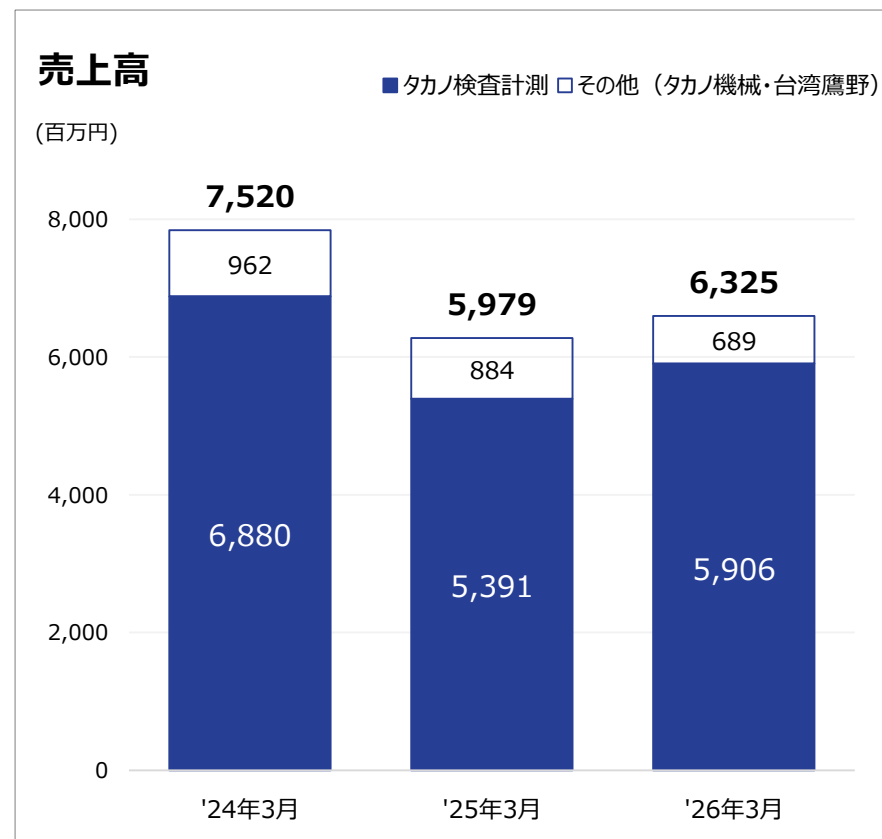
FPD向けは落ち込みも、Film向け・半導体後工程向けの販売拡大により増収

検査計測機器 売上高（百万円）

	2025年3月期	2026年3月期	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	5,391	5,906	515	9.6%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	884	689	△194	△22.0%
調整額	△296	△271	—	—
連結セグメント 売上高 ※2	5,979	6,325	346	5.8%

※1：タカノ検査計測及びその他の売上高は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：連結売上高は、セグメント間取引消去後の数値。



セグメント営業利益（実績：2026年3月期）

セグメント利益も大幅増益

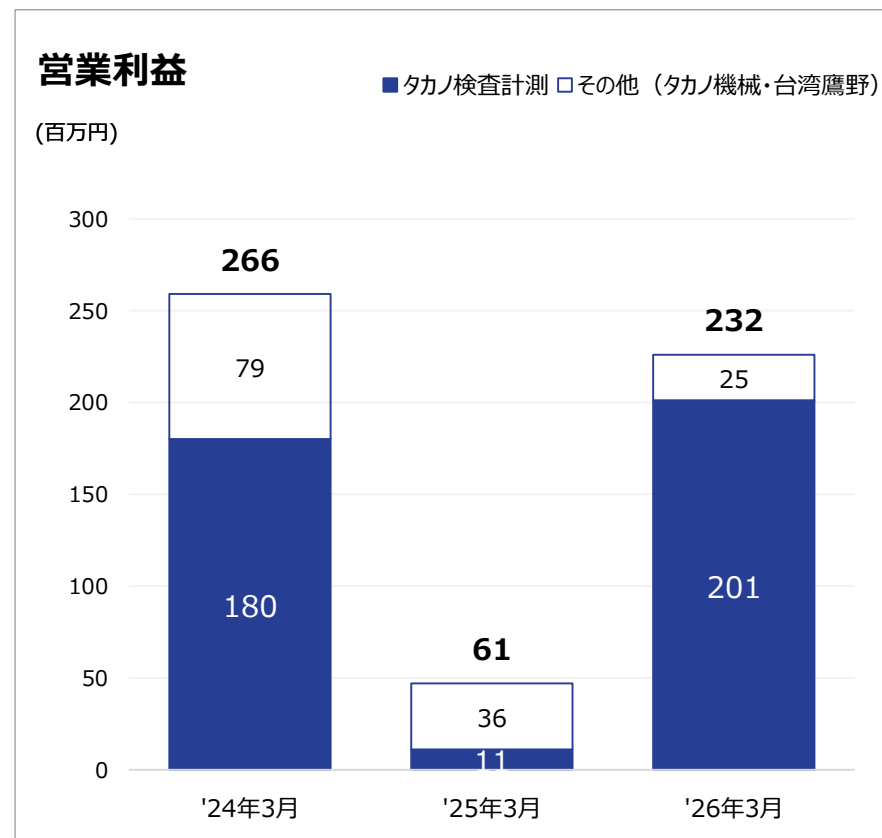
一部子会社の減益はあったものの、親会社販売装置の収益性向上により増益

検査計測機器 営業利益（百万円）

	2025年3月期	2026年3月期	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	11	201	189	1,591%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	36	25	△11	△31.6%
調整額	13	5	—	—
連結営業利益 ※2	61	232	170	274.8%

※1：タカノ検査計測及びその他の営業利益は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：セグメント利益は、セグメント間取引消去後の数値。



1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上受注計画

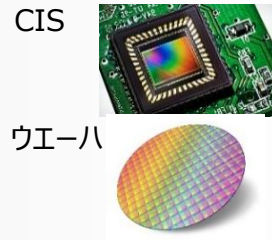
3. 中期事業展開方針

事業内容紹介

半導体・電子デバイス事業 (以下「半導体事業」という)

ウエーハの異物や欠陥を高速、高精度に検出できる半導体検査装置

- Vi** — ウエーハの配線パターンやクラック、異物混入などの製品外観を高速、高精度に検査
- WM** — ベアウエーハ表面のパーティクルを高感度に検出
- ALTAX** — ウエーハやBGAなどのパッケージ基板上に形成された bumps の高さ、径、コプラナティを高速かつ高精度に測定



WMシリーズ Viシリーズ ALTAX



※本資料における「半導体事業」は半導体と電子デバイスの合計を意味する。

フィルム事業

ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置

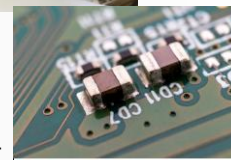
高性能カメラによる高速検査が可能 新規画像処理ユニットを搭載し、高速画像転送とAI欠陥分類により、生産ラインの品質向上を実現する

参入市場：光学フィルム・電子部材・Energy・医療用フィルム

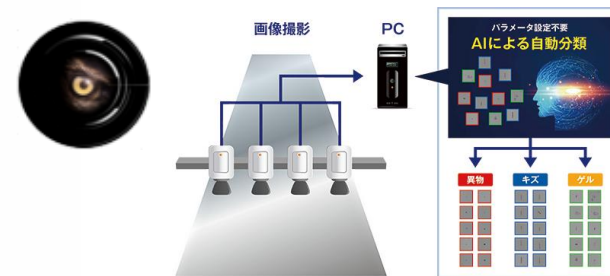
機能性フィルム



電子部材



Hawk eyes (+ TAKANO AI)



FPD事業 (液晶/フラットパネルディスプレイ事業、以下「FPD事業」という)

色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置

テレビやスマートフォン用の液晶パネル製造工程でパターン付き基板の自動検査・欠陥判定をし、量産の品質工程管理を行う装置

参入市場：LCD(液晶ディスプレイ), OLED(有機ELディスプレイ)

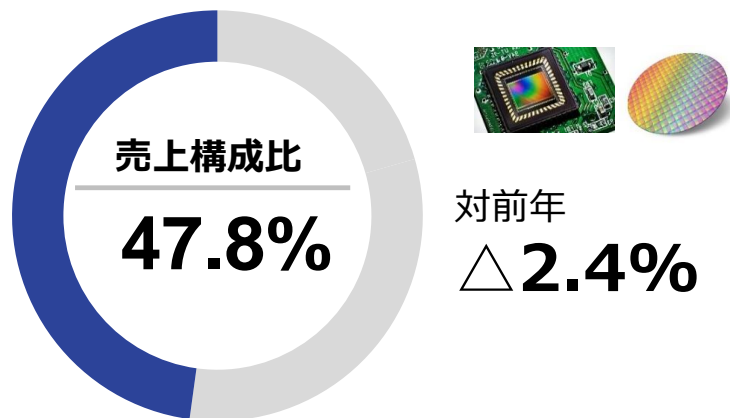


高精細外観検査装置 (カラーフィルター等) ムラ検査装置



2026年3月期 タカノ検査計測部門 売上高構成

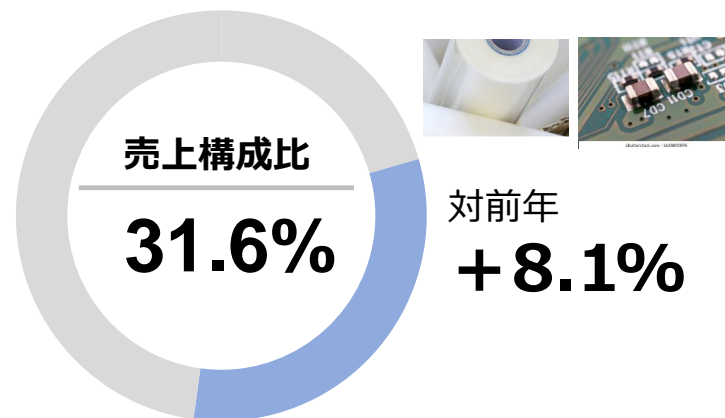
半導体事業



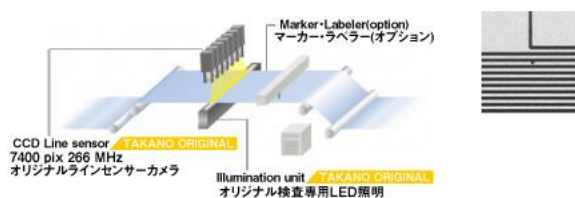
ウェーハの異物や欠陥を高速・高精度に検出できる半導体検査装置を提供



フィルム事業



ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置を提供



FPD事業

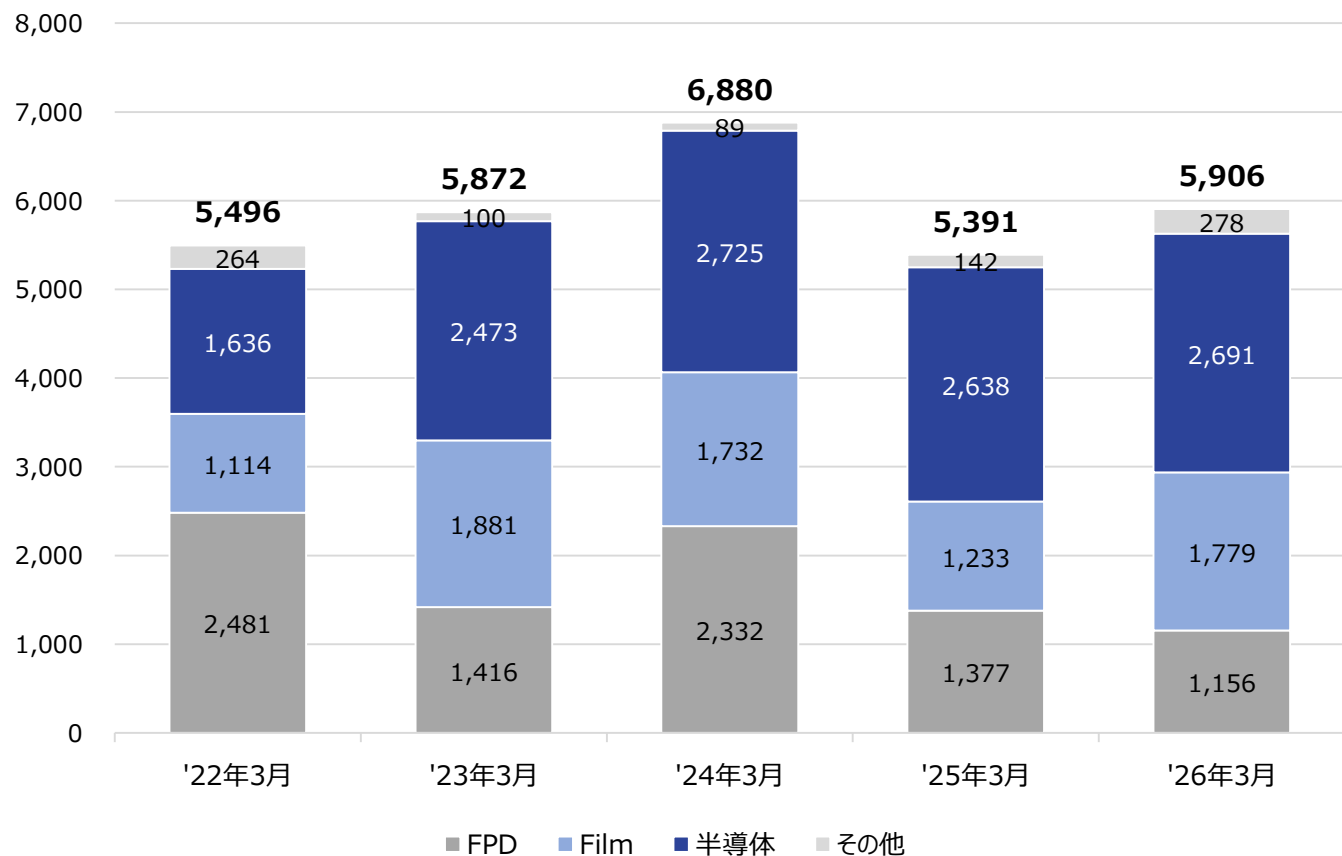


色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置を提供



製品別売上高構成推移（実績：2026年3月期）

2026年3月期 製品別売上高 推移（百万円）



【FPD】

- 一部大口案件の売上計上はあったが、需要は改造案件中心。
⇒オペレーション現地化と合理化で収益性の改善を進める。

【フィルム】

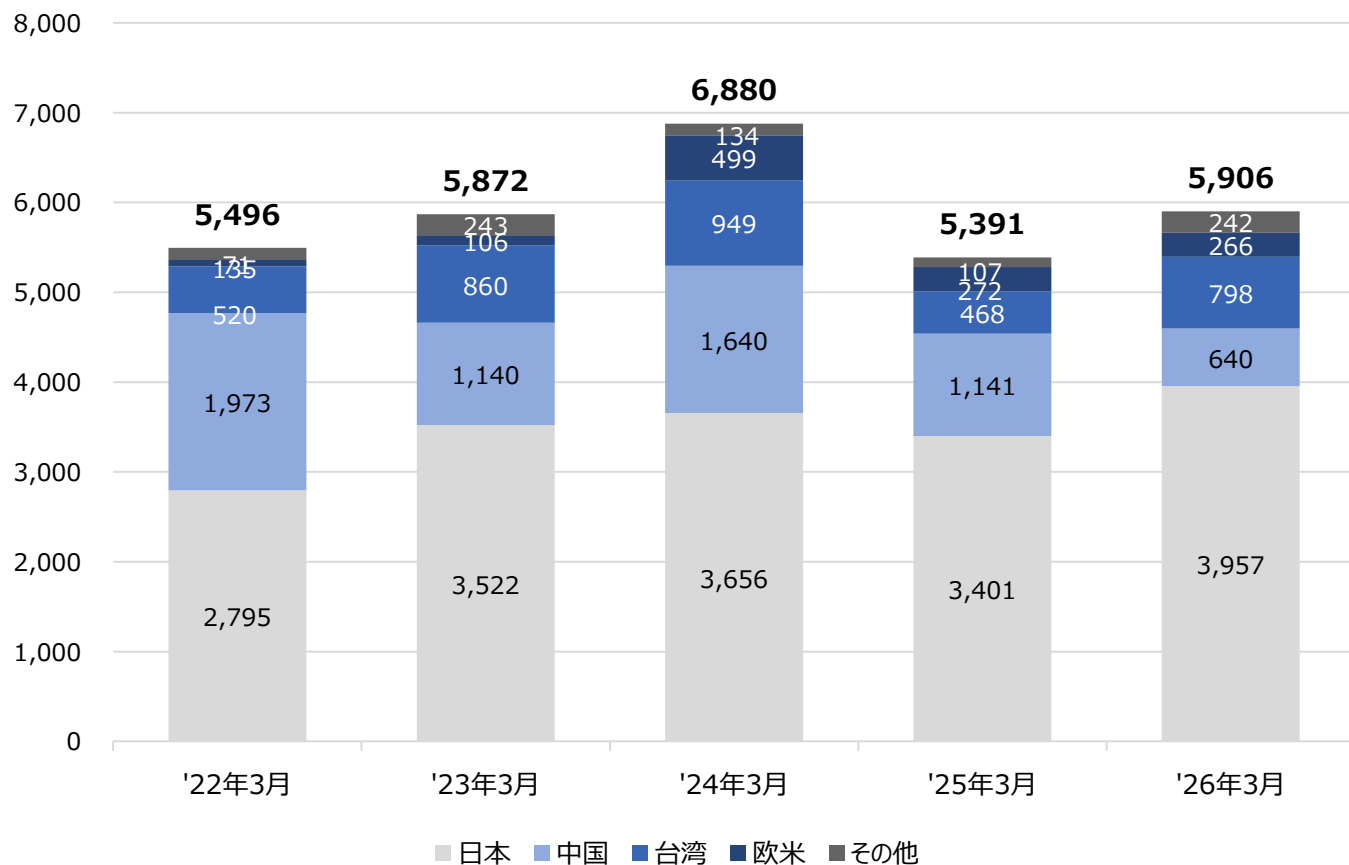
- 電子部品向け基材・半導体関連フィルム向けの販売が好調に推移。
⇒半導体実装系材料向けの展開を進める

【半導体】

- 前工程向け装置は減少も、後工程先端パッケージ向け（AIサーバー向け）検査需要は旺盛に推移。
⇒パッケージ向け検査装置Altaxの拡販
新製品開発に注力

地域別売上高構成推移（実績：2026年3月期）

2026年3月期 地域別売上高 推移（百万円）



【日本】

半導体後工程向け・Film向け国内販売が
堅調に推移

⇒引続き半導体後工程向け販売に注力

【中国・台湾】

中国FPD向け販売は減少も

台湾地域半導体前工程向けWMは拡大

⇒FPDメンテアフター需要の取り込み

⇒アジア圏へのWMシリーズ販売強化

【欧米】

今期、WMシリーズの欧米向け販売は一服

⇒代理店と協働し拡販を推進

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

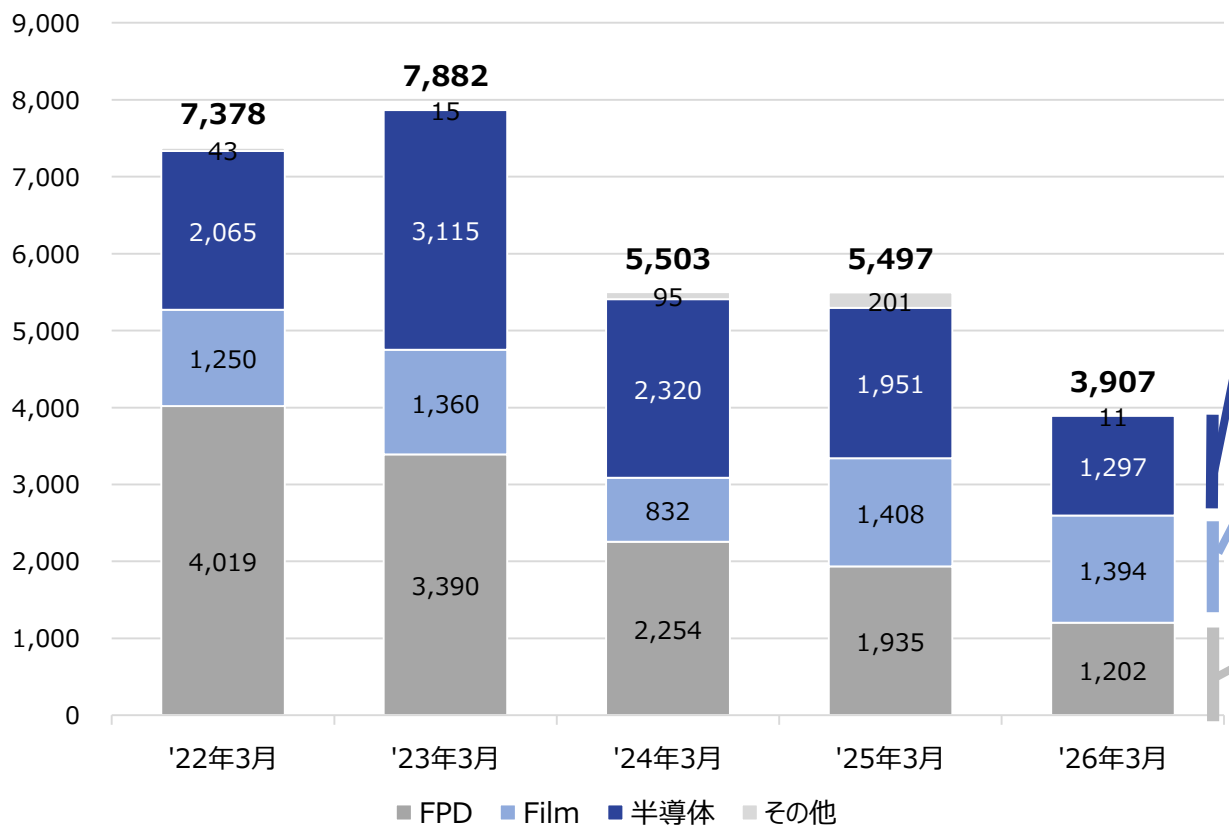
2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

部門受注残高（実績：2026年3月期）

国内レガシー半導体向けの投資は厳しいが、アジア地域での販売拡大に注力。
後工程PKG向けの受注は拡大傾向。積極的な受注活動を継続。

2026年3月期 受注残高 推移 (百万円)



半導体

★ 非先端分野(WM等)の営業取組強化

- パワー半導体関連投資は足元一服も中長期的成長を期待。アジア地域での受注展開強化（後工程Altax含む）
- AIサーバ向けパッケージ基板検査のニーズは旺盛
ガラスコア等次世代PKG向け複数案件受注

フィルム

★ 受注残高は前年同期比減少も受注前引き合いは多い

- 国内電子部品（半導体実装材料等）関連の引き合い増勢
- パターンフィルム検査等新規引合テーマ旺盛

FPD

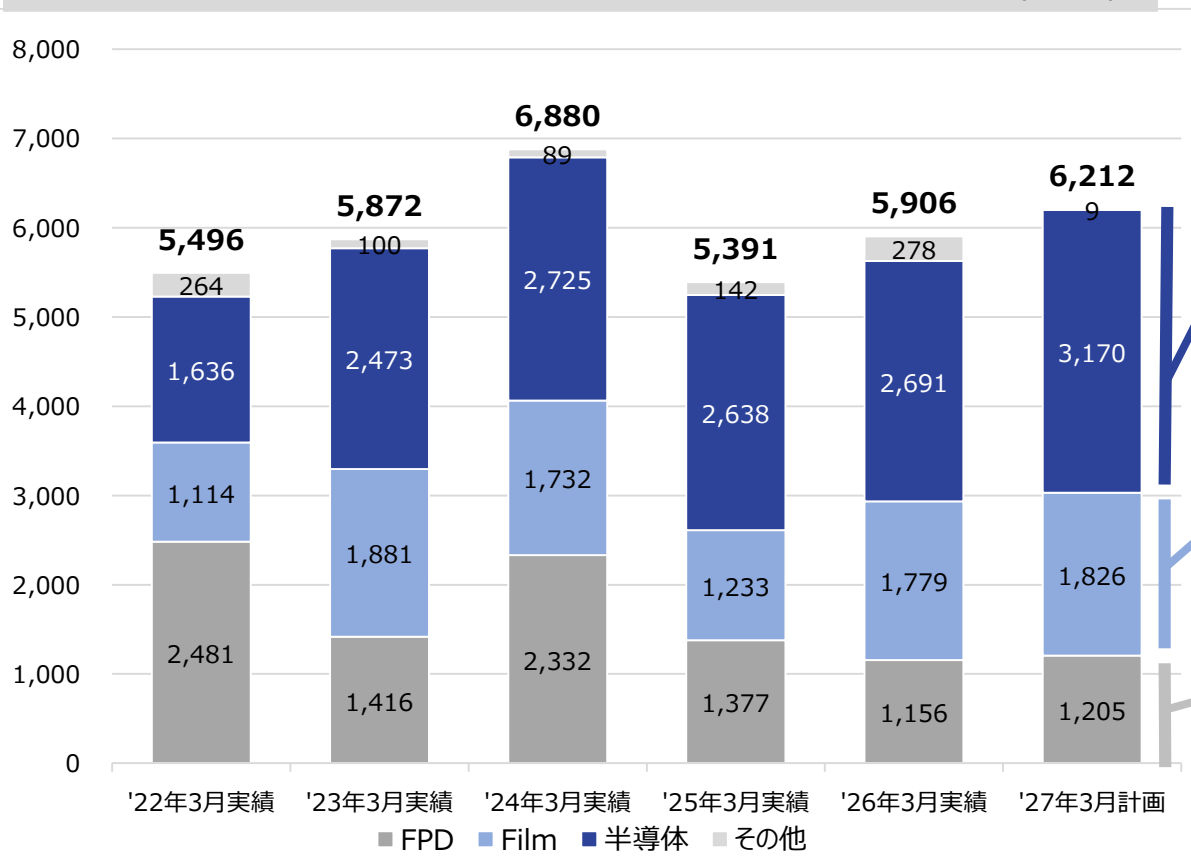
★ 過去受注の大口案件売上計上による受注残高の減少

- 大型の新規装置投資はあまり見込めない状況
- 既設ラインの統廃合が進む、移設や改造需要取込む

部門売上計画（計画：2027年3月期）

半導体事業拡大を進める（足元の市況は停滞感あるが、中長期を見据えて推進）

2026年3月期製品別売上高推移および2027年3月期計画（百万円）



半導体

- 中間工程・後工程実装高度化（先端パッケージ含む）をターゲットに新製品開発
- グローバル営業体制強化（欧米・アジア同時展開）
- 半導体事業へ資源集中振向け（人員・拠点資産）

フィルム

- 電池部材・電子材料分野をターゲットに開発推進
- ターゲット市場向け標準モデルの開発と拡販

FPD

- 今後の需要見込みに合わせた効率的事業体制へ
- 半導体事業への人的資源・資産のシフト
- アフター・メンテ・改造需要の掘り起こし

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況




2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

市場認識

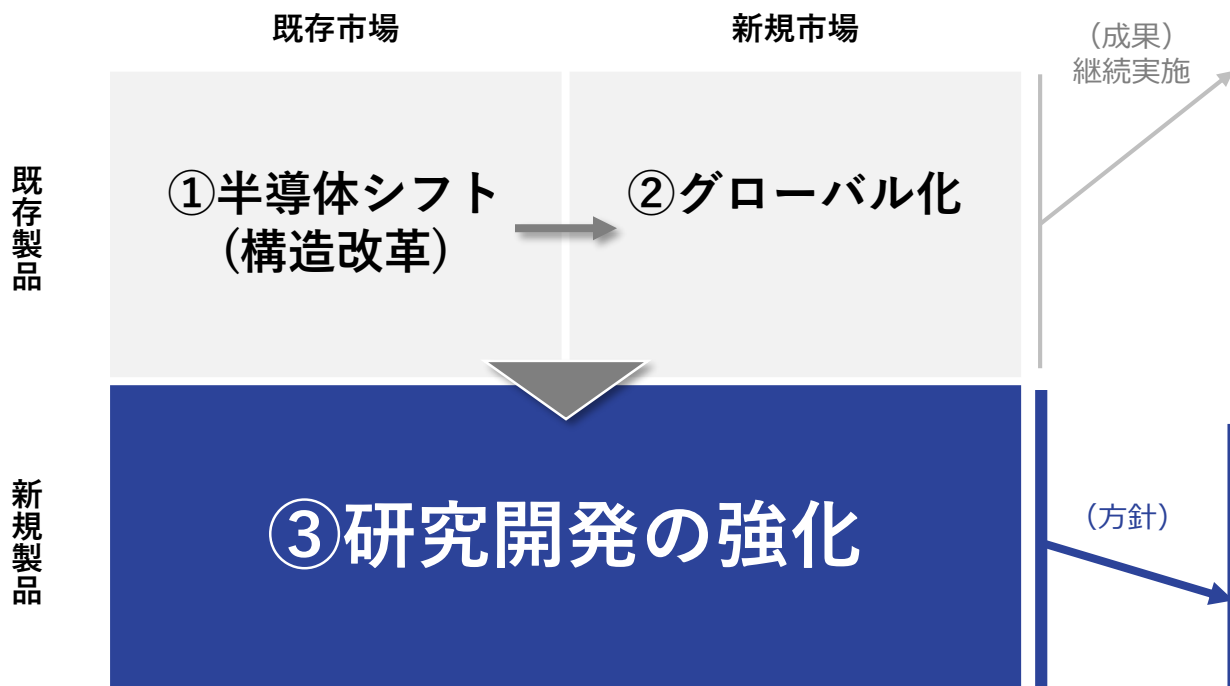
市況全般は改善の兆し。

特にA I 半導体関係市場に対しては引き続きポジティブな認識

事業	マーケット状況	補足説明
半導体	 晴時々雲 → 晴時々雲	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体市況全体はデータセンター投資等により継続拡大。 ● 3D実装・チップレット等向け、後工程・先端パッケージ向けに投資拡大 ● パワー半導体・レガシー半導体は足元厳しいが、AIサーバ電源等での回復を期待 ● 技術革新が進む → 新しいプロセス、新しい検査ニーズの発生 積極的な研究開発投資の検討及び実施を行う(グローバルな競争に備える)
フィルム	 晴 → 晴	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体実装関係部材の投資は底堅い。 ● バッテリー関連は、車載向けに長い目で成長が期待される。 ● 半導体、電子デバイス向け基材メーカー（MLCC等）からの検査ニーズが増加 AIサーバ、車載向けでの底堅い需要
FPD	 雨時々曇り → 雨時々曇り	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要顧客の新規大型投資については慎重な状態が続く ● 主要顧客の生産性改善投資（装置改造・メンテナンス）意欲はある ● 当社納入の既設検査装置の改造需要に機会

部門戦略

今回中計において研究開発を強化し、
半導体市場における競争/成長力を高める。



前回中計：①半導体シフト(構造改革)

- FPD市場の成熟化(及び市場縮小)
 - 高収益事業である半導体関連事業へのシフト
- **構造改革は今回中計でも継続**

前回中計：②海外市場売上の拡大

- 米国代理店との契約(半導体事業)
- 海外展示会への新規出展(米国, 欧州, 東南アジア等)
- 海外評価デモ環境の整備(台湾など)

今回中計：③研究開発の強化

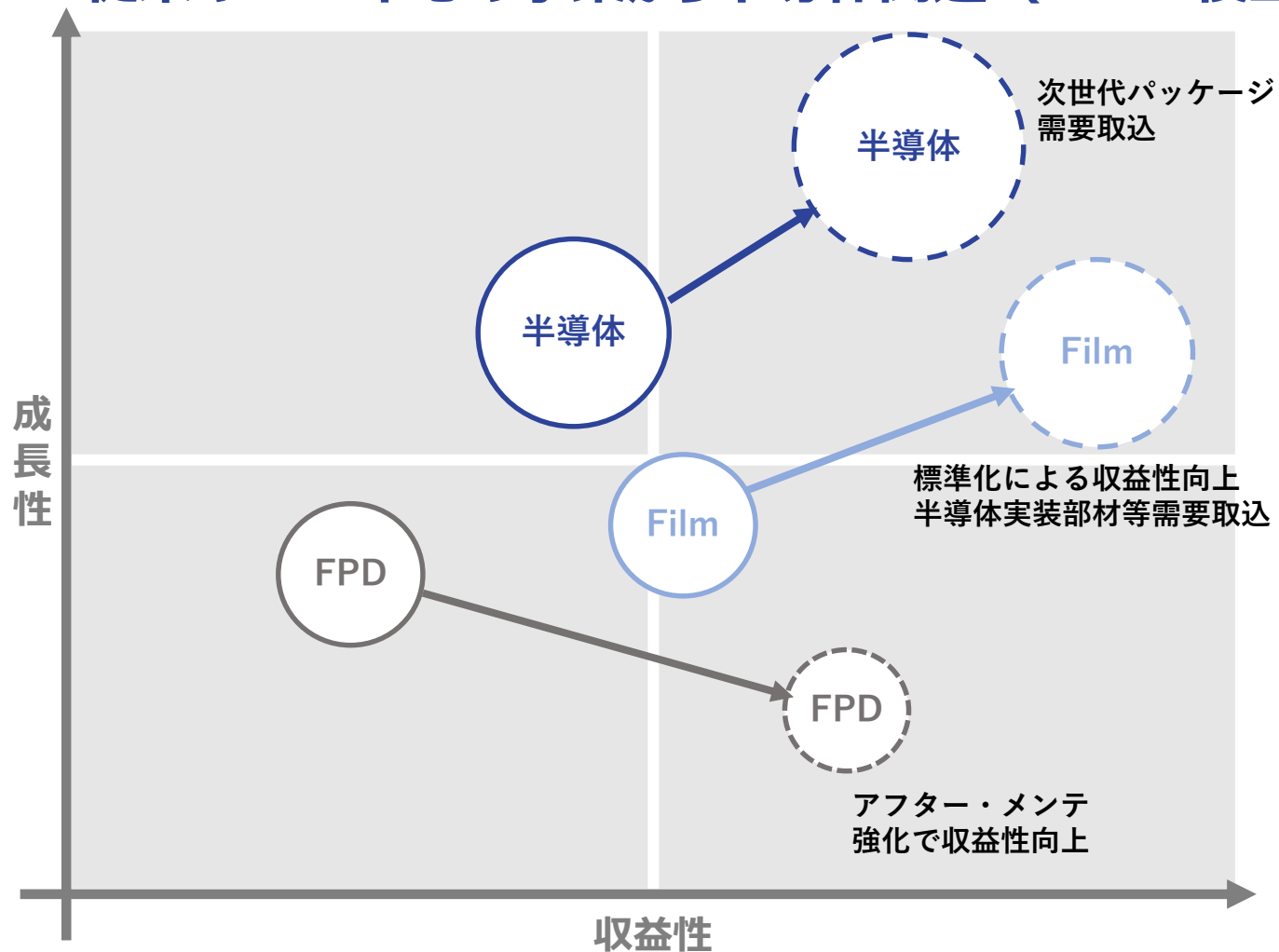
- 研究開発関連投資を拡大(半導体関連が中心)

研究開発関連費用：**1.5倍**

(前回中計最終年度に対して)

部門戦略

従来のFPD中心の事業から半導体関連（Film・後工程含む）に事業構造を転換



半導体

- ★WM製品次世代機の開発・継続
- ★AIサーバ向けパッケージ基板検査に注力
- ★パッケージ向け標準化（CD版）装置を開発
- ★3D-Altax + 2Dパターン検査の競争力向上

Film

- ★半導体関連部材シート検査に注力
- ★パターン付・異形フィルム分野装置を開発
- ★装置標準化の推進により収益性の向上(海外)
- ★CS体制の拡充とCSの収益化

FPD

- ★既設ラインの改造・メンテ需要の継続取込
- ★事業体制の適正化とPKG向けへのシフト
- ★海外子会社機能拡充、海外メンテナンス体制の強化と収益性の向上

次世代半導体パッケージ向けソリューション

Inspection Solutions for PLP Large Square Substrate

□310×310/□620×620/Glass Core

基材

PLPの基材となる有機基板・ガラスなど

■ 外観検査



Hawkeyesシリーズ

■ 反り検査



ALTAXシリーズ

Via

Via深さ、埋込後、研磨後
凹凸全面検査、Via径

- 深さ検査
- 凹凸検査
- 外観検査



ALTAXシリーズ

BU Layer

ビルドアップフィルムの
外観検査

■ 外観検査



Hawkeyesシリーズ

RDL

再配線層のオープン/
ショート、RDL高さ

■ 外観検査



Viシリーズ

■ RDL高さ



ALTAXシリーズ

Pad/Bump

Pad/Bump高さ外観
基板コポラナリティ

- Pad/Bump検査
- コポラナリティ
- 外観検査



ALTAXシリーズ

光-化合物半導体ウェハ向けソリューション

Inspection Solutions for Photonics-Electronics Convergence

WMシリーズ（ウェハ・パーティクル検査装置）



WM-7系（～200mmウェハ）



WM-10系（300mmウェハ）

○AIサーバ投資活発化・次世代通信デバイスの研究開発の進展を背景に、直近、光・化合物系半導体ウェハ（InP等）パーティクル検査装置の引合が活発化。

⇒光・化合物系半導体デバイス向けに営業展開・販売強化を行う。

JPCA Show2026へ出展しています。

開催日程： 2026年6月10日(水)～12日(金)

開催時間： 10:00～17:00

開催場所： 東京ビッグサイト 東展示棟

主催： RX Japan株式会社

出展ブース番号： 3F-42



END
(検査計測機器)

※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。

将来に関する予想には様々な潜在的リスクや不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。

従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えください。

補足資料

当社およびグループ会社の概要について

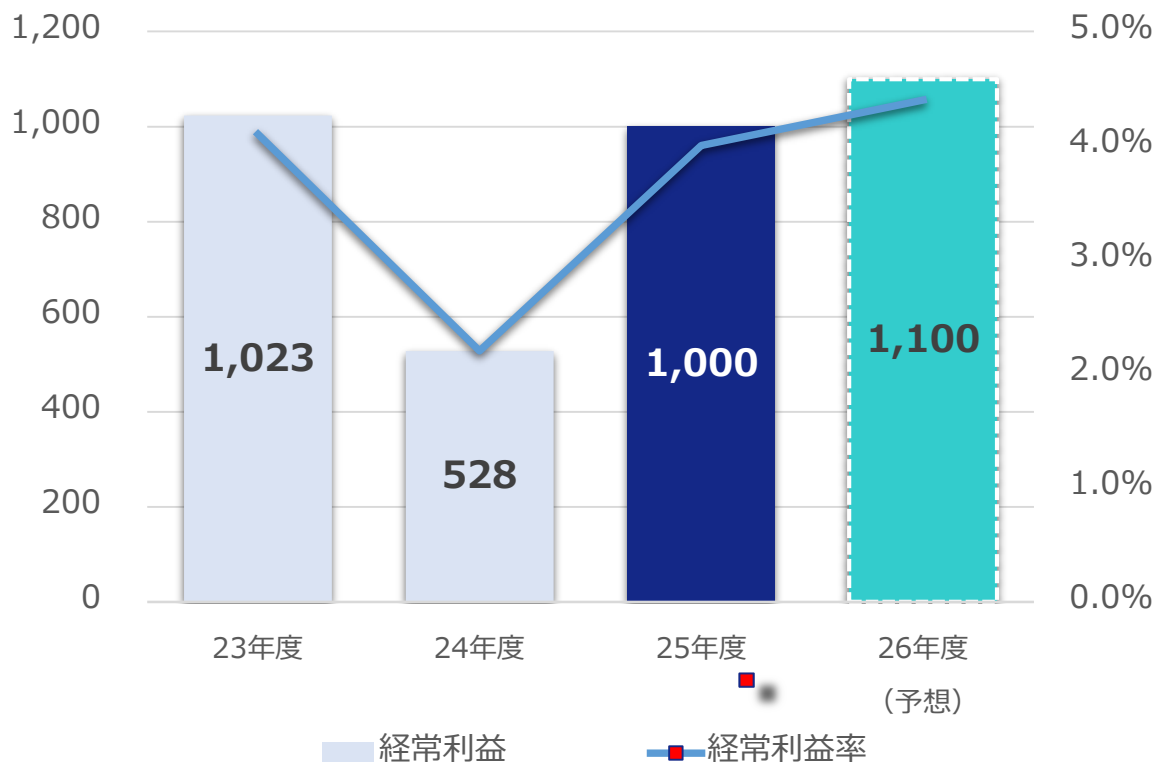
○：連結子会社、●：連結子会社（孫会社）

会社名	沿革等		事業の内容
※当社 タカノ株式会社	1953年7月 1997年2月	ばね製造会社として設立 東京証券取引所に上場	オフィス家具、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、画像処理検査装置、電磁アクチュエータ、健康福祉関連機器の製造販売
○(株)ニッコー [機械・工具]	1968年3月	グループ内の工具機械等の仕入をする商社機能として設立	工具、器具、機械、エクステリア製品の仕入販売
○タカノ機械(株) [検査計測機器]	1979年9月	当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	省力化機械の製造販売 検査計測装置のメカ機械等の製作
○台湾鷹野股份有限公司 [検査計測機器]	2005年2月 2005年4月	当社100%子会社として設立 営業開始	台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動
○上海鷹野商貿有限公司 [住生活関連機器]	2010年1月 2013年12月	当社100%子会社として設立 資本金を50万米ドルに増資	オフィス家具他、各種製品の仕入販売（当社各部門の中国市場向けの製品の販売活動等、中国からの部材仕入活動等を行う目的で設立）
○香港鷹野国際有限公司 [産業機器]	2011年8月 2012年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品、検査計測機器製品およびそれぞれの製品にかかる部品等の仕入・販売（輸出入）
○Takano of America Inc. [産業機器]	2019年8月 2020年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品の仕入販売
○(株)ユーキ・トレーディング [住生活関連機器]	1989年6月 2023年3月	会社設立 株式を100%取得し連結子会社化	福祉用具・健康用品の輸出入および国内販売
●鷹野電子(深圳)有限公司 [産業機器]	2023年9月 2023年10月	香港鷹野国際有限公司の100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品および部品等の仕入・販売（輸出入）

経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益の推移

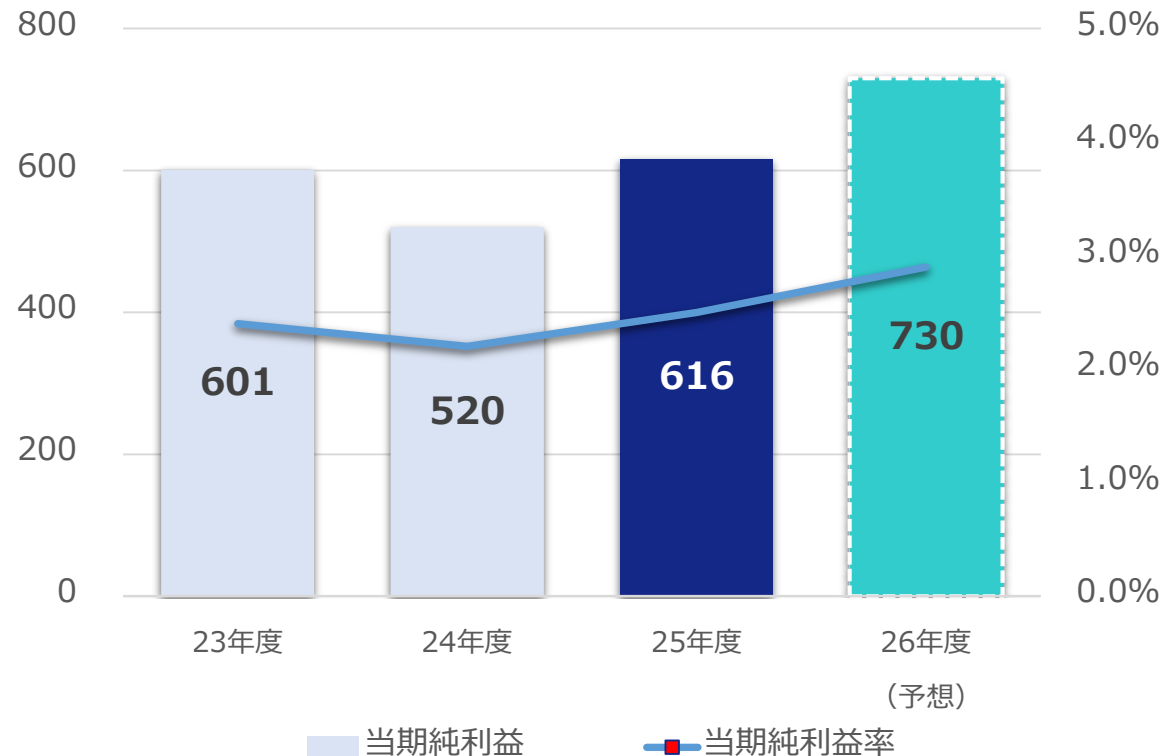
経常利益/率

単位：百万円



親会社株主に帰属する当期純利益/率

単位：百万円



● 2025年度の1株当たり当期純利益：40円48銭

総資産・純資産推移

総資産

単位：百万円



純資産

単位：百万円



● 2026年3月末の自己資本比率 **85.7%**

● 1株当たり純資産 **2,135円90銭**

2025年度 キャッシュ・フロー計算書

	2024年度実績 (百万円)	2025年度実績 (百万円)	前年比増減 (百万円)
営業活動によるCF	836	1,111	275
投資活動によるCF	△334	△1,062	△728
財務活動によるCF	△425	△398	27
現金等換算差額	51	28	△22
現金等の増減額	127	△321	△448
現金等期首残高	8,469	8,596	127
現金等期末残高	8,596	8,275	△321